

第 2 回 淡路市総合計画審議会 議事要旨

日時：令和 8 年 3 月 30 日（月）午前 9 時 55 分～午前 11 時 45 分

※出席者が揃った為、5 分前に開始

場所：防災あんしんセンター

出席者

出席委員：小田委員、岡田委員、長瀬委員、岬委員、田中委員、土井委員、
津田委員、米山委員、堀内委員、魚住委員、中野委員、関委員、
大場委員、江川委員、堀内委員、廣田委員

欠席委員：城下委員、相坂委員、鍋谷委員、保田委員

事務局：神林部長、野田部長、伊藤係長、宇城係長、(株)ぎょうせい 2 名

配布資料

資料-1 第 2 回淡路市総合計画審議会次第

資料-2 第 3 次淡路市総合計画及び第 3 期淡路市総合戦略策定に係る
主要課題の整理

資料-3 アンケート調査結果報告書結果概要（追加）

資料-4 策定スケジュール

資料-5 淡路市総合計画審議会委員名簿

資料-6 淡路市総合計画審議会 席次表

資料-7 第 1 回淡路市総合計画審議会議事要旨

次第

1 開会

2 会長あいさつ

津田会長よりあいさつ。

3 各基礎調査の報告について

資料 2 を用いて、事務局より報告

会長：今の報告を受けて何かご質問等あるか。

委員：総合戦略に関して、外国人の記載がない。日本全体で 3.3%、将来的には 10%と言われる中、淡路市でも 700 人弱いるはずだが、どのように考えているのか。

ぎょうせい：今回の資料では、詳細データ示していないが、外国人人口も把握している。今後、基本計画等を作る上で、関連分野では課題として踏まえ、施策展開を図っていくことも検討する。

委員：市の人口約3万9,000人のうち700人が勤務・定住している現状がある。5年以内の技能実習生など、いずれ帰国する可能性が高い方々の意向をどの程度参考にしていくのか。

事務局：全てを対象にすると、途中でいなくなる方の意向が市の将来のためになるのかという問題もある。冷静に考えた上で計画に入れる必要があると考えている。

会長：12ページWSの結果で「三田市のような学園都市を目指してほしい」という思いは、具体的にどういう意図なのか。

事務局：三田市は関西学院大学のキャンパスを誘致するなどして、学生のまちを作っている。ワークショップの中で、「淡路市にももっと学校を誘致してほしい」という議論があったことを受けて記載している。

委員：分析結果は全国的な傾向と同じか、それとも淡路市独自の特徴的な部分があるのか。

事務局：若者の働く場が不足しているという認識は、全国共通の傾向となっている。ただ、アンケート結果をみると、淡路市は「住みやすさ」や「愛着」がかなり高いという良い特徴が出ている。この特徴を生かして、いかに将来の定住につなげることができるかが、ポイントとなる。

委員：(株)ぎょうせいは分析だけでなく、対策について市にアドバイスするのか。対策こそが大事と考えている。

事務局：計画を作るのはあくまで淡路市だが、専門的な知見や他市の事例を持つ(株)ぎょうせいの力を借りて分析に協力いただいている。最終的には委員の皆様と話し合い、何を計画に残すか決めていく。

委員：アンケートの無作為抽出の方法は、完全に機械的なものなのか。

事務局：市が持つ市民データに対し、ランダム関数を用いて機械的に3,000人を抽出した。

委員：20ページで、ゴミや上下水道の満足度は高いと評価されているが、統計データ等からみる現状では悪い。この辺り乖離があるがどう捉えているのか。

事務局：アンケートの各施策の満足度は、回答者の主観によるものとなっている。行政側はゴミの多さを問題視しても、市民は「出しやすさ」で満足している場合など、情報量の差や立場の違いが結果に現れている。

委員：重要度が高いのに満足度が低い「農業・漁業・商工業」などの振興に、

今後予算を反映させていくということによいか。

事務局：総合計画は市の最上位計画なので、方針を示す計画となる。この計画で「しっかりやる」と示すことは各部署の予算編成を後押しする材料になる。令和8年度から各部署との協議等重ねる計画策定が始まる。その中で、課題を踏まえた計画とすることを考えている。

委員：現在、環境計画や都市計画マスタープランも改訂中だが、総合計画との整合性はどのように図っていくのか。また「いつかきっと帰りたくなる街づくり」といった言葉が今回の資料には見当たらないが、方向性が変わったのか。

事務局：総合計画は方向性を示し、具体的な項目は個別計画で書く流れになる。各計画の担当と進捗を確認し合いながら進める。将来像については、現在の「いつかきっと～」は第2次のもの。第3次に向けては市長インタビュー等のキーワードを元に、次回の審議会で案をお示しする。

委員：個別計画の整合性については、担当課とやるとの事だが、本日はこの場で協議をしないのか。

事務局：本日はテーマとしてない。

委員：18歳の高校生は「住民」と「高校生世代」のどちらに含まれているのか。進路を決める重要な世代なので、意見が埋もれているのではないか。

事務局：基準日時点で分けて抽出しており、重複はさせていない。高校生世代の回収率は19%と低いが、市民アンケート（18歳以上）の方が項目も多いため、そこで幅広く意見を拾っていると考えている。

委員：18歳の意見は高校生の枠に入れたほうが分かりやすいのではないか。

委員：年齢で区切ってアンケートを取るのは大変な作業だと思う。細かい数字よりも、アンケート全体をどう捉えて進めていくかが大事。これだけ細かく調査されたことを評価すべき。

事務局：4月1日時点で、15-17歳の方を高校生世代としているため、年度途中で18歳になる方は高校生世代としている。

会長：次に移る。

4 協議事項

- ・次期計画策定の主要課題について

事務局より、資料2の説明。

- 会長 : 今の報告を受けて何かご質問等あるか。
- 委員 : 若い世代に選ばれるには、住環境と働く場所の創出が不可欠である。医療、福祉、農業、観光、再生可能エネルギーを結合させた地域循環型システムが必要と考えている。公共施設の統廃合だけでなく、日常生活圏内に施設を充実させることが大事。防災については、避難所の環境改善（トイレ、キッチン、ベッドのTKB）が必要。また、災害時への対策として、ボランティア等が日常から訓練できる環境づくりも重要。
- 会長 : 今の意見を計画にどのように反映できるか検討願う。
- 委員 : 年間 962 万人の観光客が来る中、南海トラフ地震発生時の帰宅困難者（1 日 2 万 5 千人規模想定）の受け入れや備蓄は考慮されているのか。
- 会長 : 新たな視点なので、ある程度の答えを示していきたい。
- 委員 : 企業側から見れば、実は「人材不足」が深刻。シティプロモーションでの魅力発信が不足しているのではないか。子どもの頃から地元の企業を知る機会を増やすべき。また、移住者が地域コミュニティに馴染めず離れてしまう例もあるため、繋がりづくりも大きな課題。
- 委員 : 主要課題の柱が少し偏っている印象。「地域福祉」「健康・医療」も一つの柱として残すべきと考える。また、食の自給率の高さを生かした雇用や産業も重要。
- 委員 : 「場づくり」が不足していると考え。大人が集まる場所、子どもが学習する場所、多世代が交流できる拠点を盛り込んでほしい。
- 委員 : 「働くこと」自体をテーマにすべき。働き方の多様性や市内企業の魅力を伝える項目が必要。
- 委員 : 高齢者が増える中、健康寿命を延ばすための「健康づくり」を項目に入れていただきたい。
- 委員 : 4 ヶ月検診の対象児が 8 人という時期もあり、市が掲げる出生数 300 人維持は厳しい現実がある。子どもの居場所作りが大切で、特に中学校の部活動の地域移行により、経済的・移動の理由で活動を諦める子が出ないか心配している。
- 委員 : 中学生のアンケート 1 位は「事故や犯罪の少ない安心なまち」であるため、自転車通学の安全や防犯を地域で守る体制を明記してほしい。
- 委員 : 高齢者対策が抜けている。淡路市をこれまで支えてきた高齢者に優しいまちこそが根幹だと考える。また、観光客増による負の側面（ゴミのポイ捨て、トイレ問題、騒音、渋滞）への対策も行政として検討すべき。
- 会長 : 来年度からシティプロモーション計画も策定していくため、そのことについても方針として、審議会で検討して盛り込んでいけたらと思う。気

になった点で、中学校のクラブ活動についてはどうなるのか。昔はクラブには入らないといけなかった時代もあったが、今はどうなのか

委員：今年の8月から土日は地域に移行することが決定している。教職員の働き方改革だけでなく、地域活性化の面もあるが、移動手段や特定の種目がない場合の受け皿、経済的負担などが課題となっている。今後検討が必要。

委員：民間企業がクラブを作ると1ヶ月数千円もしくは1万円などとなることが想定される。小学生が中学生になったときに『ダンスがしたい』となった際に、通うための交通の問題やお金の問題が発生することが懸念される。

委員：移動手段は大きな課題となっている。部活に入らない子どもの受け皿についても検討していく。

会長：追加意見があれば、事務局まで意見ください。

事務局：次回ご意見を踏まえたものにするため、追加等あれば事務局までいただきたい。

5 その他

- ・今後のスケジュールについて

事務局より、資料4の説明。

会長：追加で資料7のとおり、議事録や資料を公開したいと考えているが承認いただけるか。

満場一致で賛成

委員：公開の時期はいつぐらいか

事務局：準備ができ次第。

6 閉会

以上